

Ⅱ 分野 第8分科会

高齢者の人権と福祉

司会者 長濱 尚幸 竹田 兼基

記録者 白井 宏昭 宮下 詩帆

報告者Ⅰ 野田 浩一郎（東播磨）

地域団体との交流を通じ、組織の活性化を図る。」～孤独の解消がキーワード～

報告者Ⅱ 田中 勇太（西播磨）

福祉学習をとおして、思いやりの心を育てる取組

報告者Ⅲ 中川 祐一（但馬）

高齢者障害者が自分らしく生きていくために

～65歳問題を考える～

1 研究討議の概要

〈報告Ⅰについて〉

司会 報告について、詳細等聞きたいことがあればどうぞ。

但馬Ⅰ 2クラブが休会しているが、高年クラブに何人、所属しているか。

報告者Ⅰ 9クラブで570人程度が所属している。

但馬Ⅰ 入会できるのは60歳以上か。

報告者Ⅰ 60歳以上である。次の後継者を育てるのが一番の課題である。田舎も都会も同じ状況にあると思う。

司会 他市町の団体で高年クラブ加入率上昇についてよい方法があるか。

但馬Ⅱ 高年クラブの実情は、どことも同様の悩みを抱えていると思う。組織が継続できない。自治体との共有はほとんどなく、80歳以上の会員が大半を占め、入会を誘うが断られることが多い。行政

の力を借りても難しいのが現状である。

報告者Ⅰ 明石市においても、クラブが減る一方。自治会と高年クラブの役員が一緒の地域は上手くいっている。高年クラブの人数が多く、規模の大きな自治会においては、上手くいかず難しい。

司会 他地域の実情を教えてください。

西播磨 最近インターネットが普及してきていて、高齢者が地域で疎外されているように強く感じる。今回、井戸の話題が隣保で出たが、若い隣保長は井戸の位置が分からず、井戸の位置など昔ながらの情報は、高齢者の知恵を借りなければ、地域のことは分からない。

高齢者の知恵を借りる場を作らないと、地域のことや歴史が誰も分からなくなる。高齢者も自治会の中で社会参加し、生きがいをつくるのが、大切である。

但馬Ⅲ 活動費用について教えてください。

報告者Ⅰ 個人による会費、市補助金、自治会補助金による。自治会補助金は地域によって違う。

但馬Ⅲ 会費はどのくらいの金額か。

報告者Ⅰ 月100円程度である。基本100円単位だが、地域によって多少違う。

但馬Ⅲ 私たちの地域で小さな自治会はサロンを月1回行っている。月100円でしている。事業内容で金額も多少違う。

淡路 私たちの地域では3クラブある。60歳以上で、クラブには140名所属している。年会費が2,000円で、市からクラブへ1クラブ10,000円補助金が出ている。3クラブが集まり合同で活動している。自治会からも補助金をいただいている。報告者Ⅰの方の地域のようにお金がないので、多様な活動はできない。よって感心して聞いている。

報告者Ⅰ 目的は交流なので、そんなに
お金はかけていない。自前でカラオケテ
ープなどを持ちこんでいる。

カラオケ交流では出場者は数百円かかる
が、目的は交流で、お金をあまりかけず
に行っている。

淡路 高齢者にしか分からないことはあ
る。実活動年齢としては、75歳以上が
多い。なかなか、会員が増えない。

会に加入したら、役員をしなければなら
ないから、しんどい。

但馬Ⅳ 高齢者の発言で、「今の若い者
が」の後に続く言葉で、マイナス的な言
葉がよくある。この言葉は禁句にした方
が良いと思う。

但馬Ⅰ 小学校の学童農園をしている。
田植え、稲刈りなど田んぼを子供達と一
緒に行っている。その米を売って、研修
旅行等高年クラブの経費に充てている。
子供達と共同作業をすると、文科省の「子
供夢基金」などから補助金がもらえる。
他にも市の補助金、JAからもお金がで
るので、裕福である。しめ縄教室もして
いる。高齢者の健康にもつながるが、田
んぼの管理が大変である。

介護認定者が一番少ない地域になっている。

淡路 どんな方法で田植え、稲刈りを実
施しているか。

但馬Ⅰ 田植え・稲刈りとも、田んぼの
1/4を小学5年生が主体となり実施し
ている。残りは高年クラブが中心となっ
て活動している。

司会 幼稚園や小学校と、高年クラブな
どとの交流がある地域は他にないか。

但馬Ⅴ 子供園と年4回交流している。
運動会、正月行事、5月にサツマ芋植え
などを実施している。

司会 お互いの交流をアピールするのも、
会員の増加につながっていくのでは。

但馬Ⅴ 私たちの地域では、自治会と高
年クラブとの関係は比較的良い関係にあ
る。高年クラブの会員は多い。自治会も
高年クラブを頼りにしている。高年クラ
ブが神社の清掃、地域の環境美化活動な
どを実施して、市から環境補助金などが
高年クラブに入る。役員などの世話役は
持ち回りにして、一人の負担が大きくな
らないように軽減している。

人権の話に結びつくと思うが、独居高齢
者が増えてくる。高齢者が孫を送り迎え
したりして、子供を苦勞して育てるが、
孫達は成長したら、都会にでる。高齢者
はとり残される。人権は高齢者にも、両
親にも子供にもある。個々にそれぞれあ
る。

司会 さまざまな人権がある。それにつ
いて協議するのも大切なことだと思う。

〈報告Ⅱについて〉

司会 報告について何か聞きたいことが
あればどうぞ。

播磨 (3) 認知症サポーター養成講座は
誰が講師をされているか。

車椅子体験など、中学生が認知症の人に
ついて自分のものとして捉え、理解して
いくには繰り返し学習が必要だと思うが、
どのくらいの時間設定か。

祐あいホーム上月との交流により、中学
生・高齢者も心の感動があると思うが、
繰り返しするのが大切だと思う。

年何回くらいの活動をしているか。

次年度は違う取り組みをしているか。

報告者Ⅱ 私たちの町では、福祉教育に
力を入れている。認知症サポーター養成
講座は小学校でも行っている。小学校で

行い中学校でも再度行う。講師は佐用町キャラバンメイト。私たちの地域は、3世代同居が多く、自分の祖父母が認知症であったり、交流をされていて高齢者を身近に感じる生徒も多い。その講座は中学2年生が主体となり、1回2時間程度行っている。毎年継続している。

施設周辺の奉仕作業、体育祭予行への参加が2回、2年生によるトライやるウィークなど、祐あいホーム上月との交流がある。これまでは、中学2年生のみ交流を行っていたが、2年前から全校生が交流するようになった。

総合的な時間の活動を精査し、福祉に絞って活動している。

但馬Ⅰ 発表を聞いていて少し気になったのは、聴覚に障害のある人について知るための、手話教室はコミュニケーションの一つとの発表だったが、コミュニケーションではなく、手話は「言語」である。

視覚に障害のある人について知るために、中学生がアイマスク体験をされているが、障害のある人が誘導者の肩に手を置くのに、横並びで肩に手を置くのは間違っている。

前後になり、左か右の肩に手を置くのが誘導の基本だと思う。そこを直して福祉教育を進めてほしい。

司会 学校と地域のつながりで、実践活動をしていくなか、課題等はないか。

但馬Ⅱ 私たちの学校でも同様のことをしている。4年生が福祉、3年生が地理、5年生が環境、6年生が平和を学習している。福祉については社協の指導により学習している。アイマスクで不自由な体験をする際、最初は何も言わずに体験を行い、次に支援の方法を教えて再度勉強

している。

車椅子体験はどのようにしたら安心して支援できるかなど学習している。高齢者疑似体験は、施設訪問の際に行うゲームの考案に役立っている。高齢者にもすごく喜んでいただける。子どもたちも高齢者とのふれあいを喜んでいる。

西播磨 年1回、障害のある人の体験講座を行っている。障害のある人の保護者や本人にも来てもらい体験をする。具体的にはお札を数えるのに軍手を重ねて、お札を数える体験もしている。ペットボトルの入口から覗くことで視野の狭い状態の体験をしている。出前講座として専門分野の講師が来て勉強会もしている。

〈報告Ⅲについて〉

司会 報告について何か聞きたいことあればどうぞ。

但馬Ⅰ Bさんの件でお尋ねする。自立支援の事例で上手くいった例だと思うが、退院後に、幻覚・妄想・意欲喪失などはなかったか。

報告者Ⅲ 退院後もグループホームで服薬管理等行っているので、意欲喪失はない。

西播磨 事例①②において、本人の意見が重要視されたのか、家族の意見が重要視されたのか。どのような形で進めたのか。

報告者Ⅲ 事例①については、夫婦であるが、奥さんがどこかの施設に入所したほうがよいと考えておられ、本人（夫）も同じことを望まれていた。よってお互いの気持ちが一緒だった。事例②については、家族がいないため本人の気持ちのみで進めた。精神保健制度が変わり長期入院が今はできない。

阪神 実体験をしてきた人間として報告させていただく。妻は亡くなったが、最初認知症であることを連れ合いの私が認知していなかった。その後、介護認定を受け、デイサービスを受けた。

デイサービスで介護の限界を感じたため、病院のソーシャルワーカーとケアマネと相談のうえ、急遽入院した。半年でパーキンソン病、その後亡くなった。また、今まで関心がなかったのに、最近息子が高齢による免許証返還など、私の身の回りのことに関心を持つようになってきた。正直、鬱陶しい。対処法はないか。

報告者Ⅲ 息子さんに見てもらえるのが一番。元気であるのが一番である。

但馬Ⅱ 同じ介護施設として勇気付けられる事例である。事例①のAさんの場合、介護保険に移行し費用はかかるがサービスが増えた。障害福祉にも何かサービスはないのか。

事例②のBさんの場合、43年間入院していたとのことだが、43年入院することに至った原因は何か、また途中で退院できなかったのか。

報告者Ⅲ Aさんの場合、障害福祉サービスにショートステイはある。0円で受けられる。福祉用具は、貸与がないため介護保険の制度でやるのがよい。Bさんのケースは、但馬地域では精神障害のある人の地域移行に力を入れている。病院のソーシャルワーカーは住むところは探してくれない。精神病院では全国的に退院を支援するようなことは、進んでいない。精神に障害のある人は入院すべきだという認識がある。それが長期入院につながったと思う。

但馬Ⅲ 認知症カフェが養父市内にある。高齢者を介護施設にあずけるのか、家で

見るのか、そんな話題が多い。

あるケアマネージャーが、介護度でサービスを受けるより、行政が中に入り、見守りをする体制をつくることが大切と言っていた。

総括と今後の課題

北播磨 高齢者と人権ですが、親の人権・配偶者の人権・子どもの人権がある。それぞれに人権がある。周りがどのような理解を示しているか、周りが人権に対してどのように感じているかも大切である。本人の意思確認も大切だが、認知症になると意思表示ができなくなるため、どのような支援をすればいいか考える必要がある。

司会 報告Ⅰ、会員数・費用面のことなど大きな課題がある。テーマにあるように孤独解消においては、地域交流が大切である。

報告Ⅱ、学校の取組としては、これからの課題として、時間が限られているなか、ただの交流のみで終わってはいけない。道徳の授業があるなか、高齢者に対する尊敬の念が子どもと共有できるか、心情をくみ取る人権学習が課題である。

報告Ⅲ、地域で抱えている問題が多数ある。福祉に対する知識を強めるのが大切なことである。福祉人権は命の尊厳。普通に暮らせることが福祉である。頭で理解し、心で納得し、体で実践することが大切である。福祉・介護・医療の連携をさらに深める必要性があり、高齢者が大切にされる地域づくりを、今後も地域の特色を活かしながら進めることが重要である。